

アクティブ・ラーニングの視点を
取り入れたダンス授業の実践
～基礎・基本の徹底と思考力の向上を目指して～



中央区 与野東中学校 教諭 大橋 和彦

1 はじめに

本校は「希望(ゆめ)を実現する生徒 ー学べ・磨け・輝けー」を学校教育目標に掲げ、現在は「教育課程の工夫」と「授業における効果的なICT活用」をテーマに校内研修を行っている。保健体育科においてもこれらの視点を踏まえ、年間を通して思考力の向上を目指して授業実践に取り組んでいる。

本単元では2年生のダンスの授業を題材として、生徒が話し合い活動の中で動きを考え、実行に移すという学習過程を重視したダンスの授業を実践し、生徒の思考力向上をねらって展開した。

2 授業について

(1) 教材としてのダンス

ダンスは、全身運動であり自分の体を思うとおりに動かすという点から、持久力や巧緻性を高めることに適している。また、個人から集団へと動きが発展していくため、コミュニケーション能力の向上にも役立つ。協同や表現による楽しさや喜びを味わうことができ、お互いに認め合える場面が多いことから、運動が苦手な生徒も意欲的に取り組める領域である。加えて小・中一貫教育の視点から、小学校までの学級単位の授業という流れを汲み、男女の技能や体力差なく展開でき、お互いのよさを認め合えることができると考え、本単元では男女共修で行った。

(2) 運動量の確保と基礎・基本の徹底

導入においてウォーミングアップで4分間のエアロビクス運動を取り入れ心拍数を上げるとともに、ダンスの基礎ステップを取り入れたダンス体操に取り組み、基礎・基本を徹底して反復した。

また、展開においては、練習の時間と話し合い

活動の時間を区別し、数分のインターバルでダンスの練習に取り組むことで運動量を確保した。

(3) 思考力の向上とアクティブ・ラーニング

話し合い活動を取り入れ思考力を伸ばすことによって主体的な学びを実現するために、基盤となる知識の確実な定着が必要である。本授業では、展開中のミーティングで1年次の履修内容やダンス体操の動きを基にして、個から小グループでの集団としての動きを考えさせた。また、カメラの映像を活用したり、踊らずに評価する生徒を立てたりするなど、客観的な視点を意識させ、動きの創作に取り組ませた。学習カードも活用し、個人の考えや工夫した点を記述させ、それを共有できるような取組を行った。

3 成果と課題

1年次の授業において表現の喜びや達成感を味わわせ、ダンスに対する意欲を高めることができた成果により、成長段階で恥ずかしさを意識しがちな2年次も大変意欲的に取り組むことができた。3年間を見通した指導はとても重要だと再認識した。また、グループでの話し合い活動も、基盤となる動きを理解しているからこそ、具体的な案を出してよりよいものにしようと積極的に取り組み、アクティブ・ラーニングに迫ることができた。

課題としては、話し合いの焦点が指導者の意図している方向からずれてしまうことがあった。話し合いの焦点を絞って助言をすることで、より深い学びへとつながり、さらに思考力を向上させたのではないかと考える。

今回の実践を糧にして、今後も様々な取組を考え実践し、生徒の思考力を向上させていきたい。